



4-Aug-23



## 朽木こがわ溪流センター



朽木こがわ溪流センターは、自然豊かな旧朽木(くつき)村の峡谷の集落である小川(こがわ)にあります。

<https://www.senlucas.com/kutsuki>



国道 367 号。福井県小浜市から京都の出町商店街に至る山間の渓谷を縫って走る延々十八里の鯖街道(さばかいどう)は、戦国時代から江戸時代にかけて、若狭から京の都に鯖が運ばれた街道です。今も朽木の集落では街道の歴史や文化を、ダイナミックな大自然と共に感じることができます。

かつて朽木は林業で栄えました。朽木で切り出された材木は、木地師が轆轤(ろくろ)を回して製作した盆や碗として日本全国に出荷されました。建築用の丸太は、筏(いかだ)に組んで、針畑川から安曇川と琵琶湖を経由し、京都や奈良に運ばれていました。世界最大級の木造建築物として有名な「東大寺」にも朽木の木が使われているそうです。

1

